

第1回

目が見えない・見えにくい私だから考えついた

“とっておきのアイディア” コンテスト



入選作品

表彰式

平成28年11月1日10時30分
すみだ産業会館（「サイトワールド2016」）

社会福祉法人 日本点字図書館／公益財団法人 共用品推進機構

ごあいさつ

このたびは、「目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア”コンテスト」に、たくさんのご応募及びご協力をいただきありがとうございました。

お蔭様で、盲学校の部では47名、59作品、一般の部では76名、134作品の応募をいただきました。

このコンテストは、国内初、また世界でも初の「目が見えない・見えにくい人」からの“とっておきのアイデア”ということもあり、応募してくださった皆様はイメージが湧きにくいこともあったかと思いますが、かえてそれが想像力の幅を広げたのではないかと思うほど、様々な分野の応募をいただきました。

アイデアの傾向を分けると大きく三つの項目がありました。

1. 夢のあるもの（非現実的なものであるが、夢があり希望が持てるものなど）
2. 実現可能性があるもの（現実的であり、製品化が可能なもの、あるいは少しの工夫で製品化がきそうなものなど）
3. ユニークさや斬新さがあるもの

また分野としましては、移動支援、衣服、医療機器、家電製品、玩具、光学機器、書籍、情報、食品、日用品、文房具、金融、住宅設備等と、主催する私たちの想像をはるかに超えた作品がたくさん集まりました。

その中で今回最優秀賞に輝いたのは、盲学校の部では高知県立盲学校のチーム・ちっぽ家(け)メンバー3人が考えた「まがるもん」でした。チーム一丸となって、友達と話し合い、プレゼンテーションを行い仕上げた作品は、情熱が感じられ、大変心地よく、温かい気持ちにさせてくれるものでした。

また一般の部の最優秀賞は、「レミノ(Let me know「教えて」から由来する)」でした。「レミノ」は人工知能を活用した機器のアイデアですが、誰かに頼まなければ理解できなかったものが、この機器を使って自分の力で理解できるようになるという希望を抱かせ、さらに子供達の書いた文字や絵などに触れることができるという、愛情にあふれた思いが伝わってくるものでした。

作品の選定に関わった審査員からは、「どの作品も大変良く、僅差であったため、受賞作品を選ぶことが大変だった」との感想がありました。

次回のアイデアコンテストでも、皆様の素晴らしい作品に出会えることを楽しみにしております。

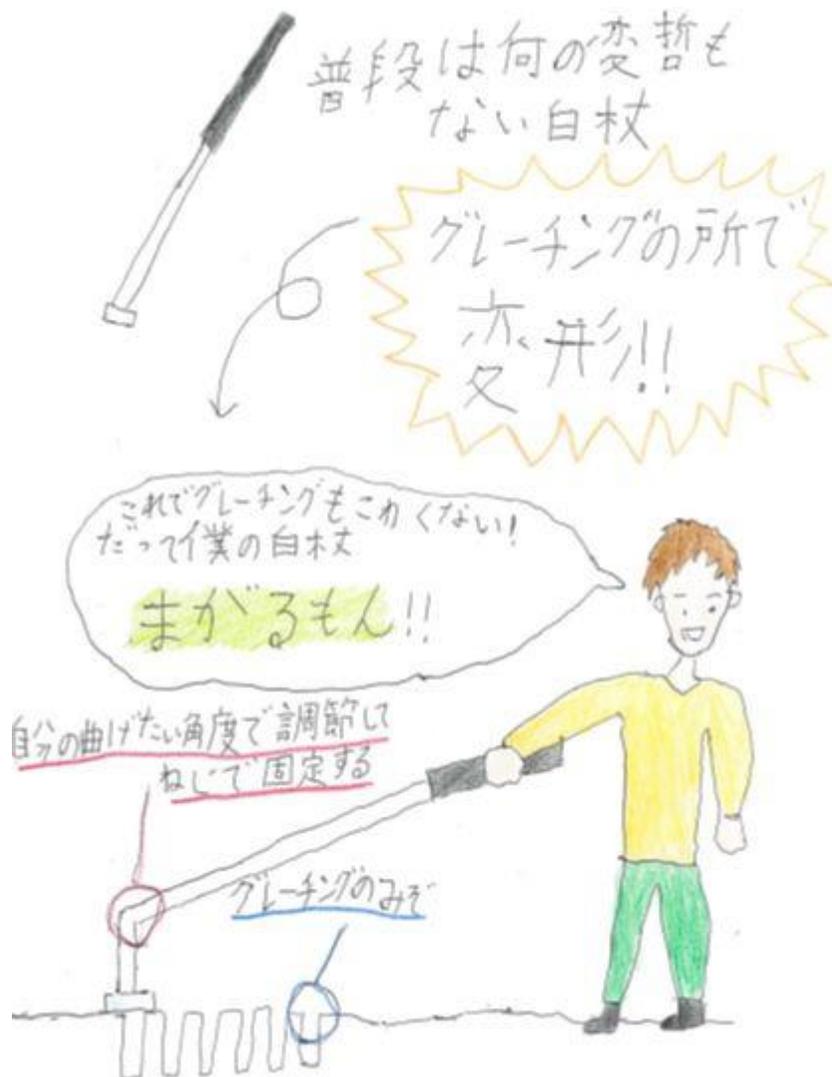
目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア”コンテスト事務局
社会福祉法人日本点字図書館
公益財団法人共用品推進機構

盲学校の部 《最優秀賞》

まがるもん

山本麻琴さん、浅野拓朗さん、伊與田萌さん

(高知県立盲学校 高校1年生、高校2年生、高校3年生)



先端15cm変形可動式白杖は、歩行中にグレーチングなど溝のあるところに来ると、白杖の先端を曲げて、好きな角度で固定することができます。普通の白杖は、石づきがグレーチングの溝にひっかかってしまいましたが、「まがるもん」は、石づきが地面に垂直に接するため、グレーチングにはまりません。現在の白杖より安心して歩くことができるものです。

《優秀賞》

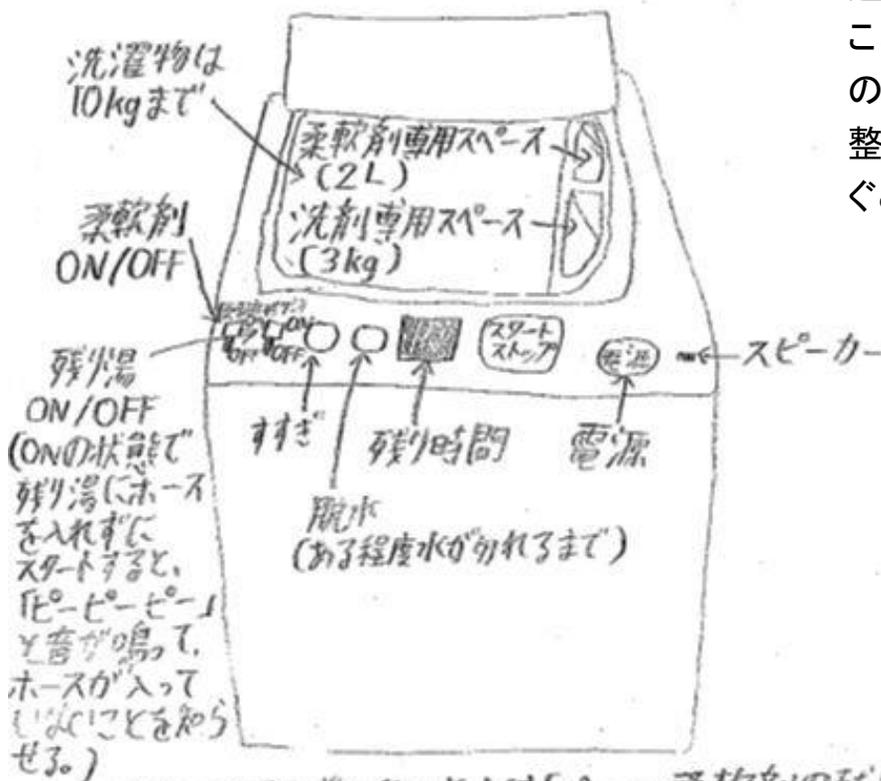
洗剤自動洗濯機

高橋宙生さん

(愛知県立名古屋盲学校 高校1年生)

洗濯物の量に合わせて自動で洗剤や柔軟剤の量を調整することができます。洗剤や柔軟剤は専用スペースに入れて置くだけでよく、洗剤や柔軟剤の残りが少ない時は音で知らせてくれます。

先剤や柔軟剤の量を見て調整するのは大変で、こぼしてしまったり、量を間違えてしまったりすることもあります。この洗濯機は自動で調整するため、失敗を防ぐことができます。



・洗剤の残りが少ないときは「ピー」、柔軟剤の残りが少ないときは「ピーピー」と音が鳴り、音のちがいで何が少ないかを知らせる

声でお知らせカップめん

古田桃香さん

(岐阜県立岐阜盲学校 小学4年生)

カップめんの容器にお湯を注いだ時、内側の線が容器の色と同じで見えづらいため、線の所までお湯が入った時に、音声で教えてくれるカップめんです。熱湯は顔を近づけたり指で確認したりできないため、音声があると安全に作ることができます。



《入賞》

でこぼこピアノ

酒井翔太さん、酒井日香さん

(石川県立盲学校 小学2年生、小学4年生)

鍵盤は、最初はぺちゃんこになっています。マイクに演奏したい曲を言うと、ぺちゃんこだった鍵盤がでこぼこ出てきて赤く光り、でこぼこしているところを出た順に鍵盤を押すと演奏できます。

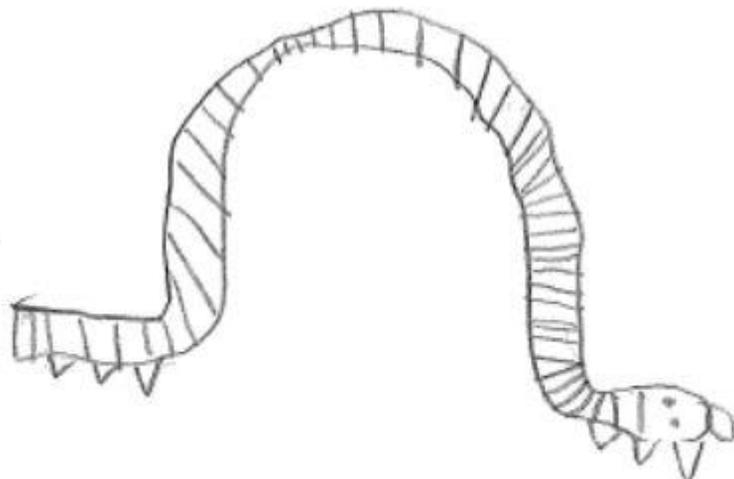
形はグランドピアノで、ピアノの足の下には滑り止めがついています。ピアノの下はふわふわで赤ちゃんが入ってもフワフワ。マイクは折りたたむことができます。コンパクトで重くない(縦45cm×横65cm×高さ30cm)。ピアノの色をピンク、青、白、黒で選べます。

ゴミすいとり君

おくわきりんさん

(長野県松本盲学校 小学4年生)

細かく見えにくいごみを自動ですいとってくれるしゃくとり虫です。しゃくってゴミを食べてくれます。



おしゃべりカラフル白杖

遠野希来々さん

(岩手県立盛岡視覚支援学校 小学4年生)

白杖が自分の前にあるものを教えてくれます。場所も話してくれます。普段は目の前の様子を教えてくれますが、場所ボタンを押すと場所を教えてくれます。例えば、電柱がある時は、「1メートル先に電柱がある」と話し、場所のボタンを押すと「北山1-10-1 盛岡視覚支援学校」と住所や主な建物を教えてくれます。注文したかわいい模様を白杖につけることができます。

未来の歯ぶらし

岩本元気さん

(北九州視覚特別支援学校 中学3年生)

歯ぶらしの持つところに、歯磨き粉がセットできるようになっていて、1回押せば1回分の量の歯磨き粉が出て来るようになっている仕組みです。(歯ぶらしに歯みがき粉がつく。)持ち運びに便利で、出し過ぎません。

私だけのとおきレンズ

香川県立盲学校高等部普通科3年生の皆さん

弱視者が遠くを見る時に使用する単眼鏡は実用品であるけれど、どうしてもやぼったく、おしゃれではありません。特に、思春期の私たちが晴眼者という時、取り出すのは恥ずかしい。眼鏡のフレームにいろいろなデザインやカラーがあるように、補聴器のカバーがおしゃれになってきたように、単眼鏡もおしゃれにカスタマイズしたい！！そんな思いを込めたアイデアです。

弱視者だけでなく、コンサート会場、バードウォッチングの場などで、誰もが使いたくなるカラーバリエーション。自分らしくおしゃれに楽しめるデザインです。

一般の部

《最優秀賞》

レミノ

(Let me know 「教えて」から由来する)

小暮 愛子さん

(群馬県前橋市)

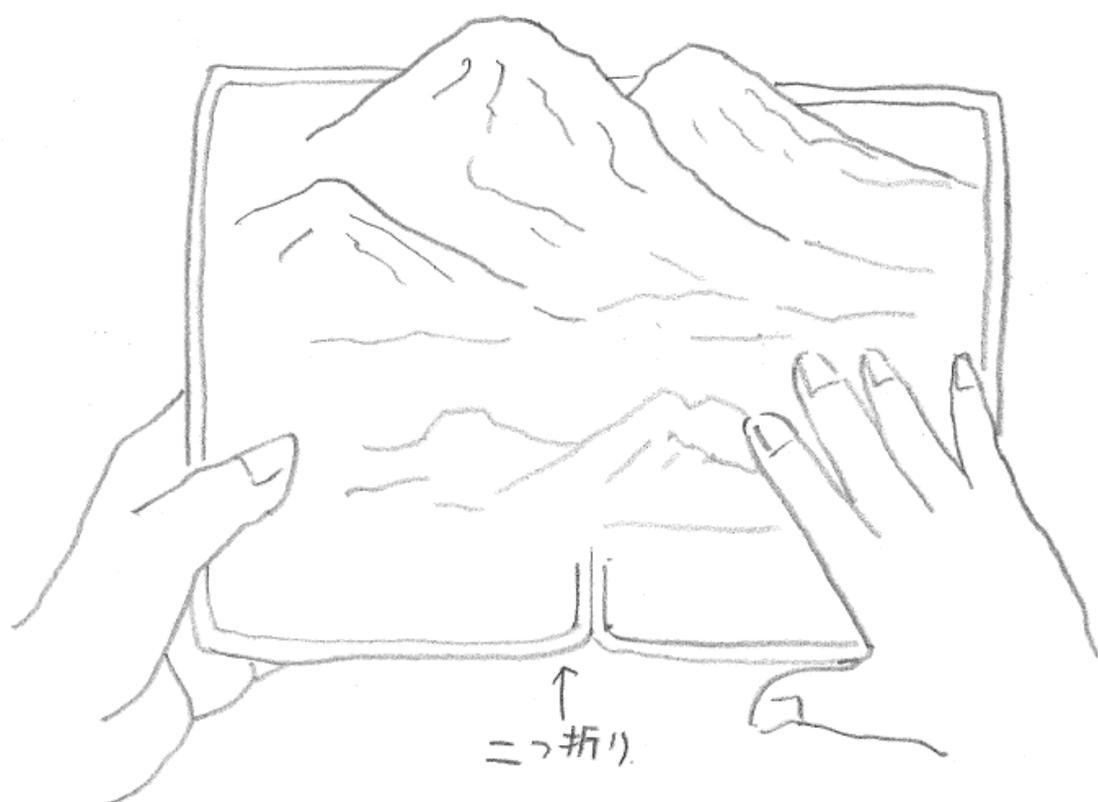
触覚、聴覚、臭覚、視覚、四つの感覚を使って物質を「知る」ための超最新IT機器。「知りたい」と思う対象物をカメラ部分にかざすと、特殊加工の液晶画面が立体化し、その形状を手で触って確認することができます。絵や写真、地図や洋服の模様など、使用用途は無限大。誰でも簡単に使えるタッチ操作で拡大率切り替え、白黒反転などの便利な基本操作が使えます。

「レミノ」は人工知能を活用した機器で、音声で対象物の色や形、大きさをいつでもどこでも解説してくれます。

文字の読み上げは墨字、点字、外国語、どんなジャンルの文字も好みの言語で読んでくれます。調べたい事柄に関しては、音声検索ができ、検索結果は触って、聞いて、見て、また匂いでも知ることがカラーバリエーションは幅広い年齢層を想定して10種。本体重量はルーペや老眼鏡のように気軽に持ち運びに便利な100g。

自身にとっては未だ目にしたことがないわが子の顔を肉眼で見たいという大きな願いがあります。それと同時に彼らの書いた文字、描いた絵画などレミノの様な便利な道具さえあれば「今すぐに確認できるのに」と思う物が毎日の生活の中にあります。こうした不自由な思いをしている人は、視覚障害者も年齢的な視力の衰えを感じている人も同じで、「見えない」からこそ「知りたい」ことも多くあるのではないかと考えます。日常生活で、職場で、学校で、使う人それぞれが持つ「もどかしさ」がこの製品の可能性を広げ、そうした先にその人自身の可能性も広げていくのではないかと思います。

地図にかさすと触ってわかる！



※お話を伺って事務局で描きました

《優秀賞》

折り畳み白杖用 SOS発信フラッグ内蔵収納袋

本間喜晴さん

(神奈川県川崎市)

折り畳み式白杖用の収納袋に視認性の高い、あざやかな黄色い布を用い、通常は収納袋として使用し、屋外で助けが必要な状況に陥った際には、袋に内蔵している旗(文字入り)を引き出して掲げることで周囲にSOSを知らせることができます。フラッグには、上下が判別できるように、下部に切欠きをつけます(持ちにくい方が下です)。



大腸がん検査用キット便利君

吉田重子さん

(北海道札幌市)

大腸がん検診で、いつも難儀に思うのが検査キットの使用です。検体を採取したスティックを、器のあの細い挿入口に持っていき、手や器の外側を汚さずにすんなりとおさめることは、全盲の私には難しいのです。感覚をつかもうと、使用前に何度か練習してから本番に臨んではいるものの、この不便さは解消してほしいもののひとつでした。

そこで器の挿入口が広い大腸がん検査キットを考えました。挿入口に小さなストッパーが付いたもので、開いてスティックを取り出し、検体採取後に広い口からスティックをおさめた後に、口を閉めてストッパーをロックして密閉をするものです。

《入賞》

変身カメラ

福田 勉さん

(山口県下関市)

映したものを立体で表現してくれるカメラ。「拡大」と言えば、立体が大きくなり、「縮小」と言えば小さくなります。絵本のリンゴを写すとカメラがそのリンゴに形を変えます。人を写すとカメラがその顔に形を変えます。写したものは名前を付けて記録し、その名前を言えばその形に変身します。

チョイタッチ

内田多美子さん

(東京都清瀬市)

自分のそばで手を放しても、杖が自分で経っていてくれる道具。通勤の時など、特に雨の日には傘もあって、荷物もあつたりすると、電車に乗り込む時、傘をたたんで鞆にしまいたい、そんな時、両手を使いたいけれど杖のストラップを腕にかけると、そばにいる人にぶつけてしまったりして、とてもやりにくいのです。ちょっと立てておけるようなモノがあったら便利だと思います。杖の先が何か操作をすると、吸盤のようになつたり、または、自転車の後ろについているスタンドの様なものがあって、足で踏んでいられたら、どこかに行ってしまうこともなく安心です。

ビックデータを活用した駅構内等公共施設の案内マップ

小高公聡さん

(東京都西東京市)

SuicaなどのICカードに何かしらのチップを組み込んだり、スマートフォンのセンサーを活用して多くの人々の移動軌跡（ビックデータ）を取得し、駅構内の案内マップが作成できれば、日々刻々と変化する工事情報などにも対応した、人手によるメンテナンス不要なマップを作ることができ便利です。

手帳型携帯墨字プリンター

栗川 治さん

(新潟県新潟市)

鉛筆やメモを使って墨字を書くことが困難な人が、家族や職場の同僚など、身近な人に、ちょっとした伝言、メモを書くための超小型・薄型の携帯できる墨字プリンター。JRの車掌や営業で外回りをしている人が使っているような手帳型小型機器にスクリーンリーダーをインストールできるようにすれば、すぐに実用化できるはずです。あるいは、スマホや携帯電話に接続できるようにして、入力はいずれの機器に任せれば、プリンター単体でも構いません。使う紙はレジのレシートの用紙の幅であれば、既存のもので対応できると思います。電池は単四が2本程度、あるいは充電式。常にカバンのポケットに入れておいてもじゃまにならない小型サイズ（手帳や携帯電話程度の大きさ、薄さ）。

もみあげの揃え方

益子良夫さん

(東京都東村山市)

髭などは電気カミソリで手入れをしています。しかし、長くなったもみあげの手入れ、すなわち左右のもみあげを同じように、ともに水平にそろえて切ることは困難です。

一人で左右揃えてカットできないか？現在、名刺を半折として、メガネをフレームにぶら下げ、もみあげの切る位置を決め（左右ともほぼ同じ位置となる）、電気カミソリのもみあげ部分を切る刃を水平になっている名刺にあてて切ります。こんなことがいやなら、月一回理髪店に通えばいいとの意見もあるのですが、私は2か月に一度のことなので、何かできないかと考えたわけです。

講 評

審査委員長講評

夢は楽しい

社会福祉法人日本点字図書館理事長 田中徹二

楽しい夢を二つ上げたい。盲学校の部では、「まがるもん」、一般の部では「変身カメラ」だ。「まがるもん」は、溝などに白杖の先端が入り込まないように、先端15cmで曲げ、好きな角度で固定できるというもの。どうせ夢なら、白杖が溝に来たら、自動的に曲がってもらった方がいい。「変身カメラ」は、被写体をカメラで写すと、カメラそのものがぐにやりと変わるというもの。顔でもりんごでも、カメラ自体がその形になってくれるのはうれしい。来年もこんな夢を見たいものだ。

審査員講評

応募作品の根底に流れていた「思い」を語り合しましょう

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 青木隆一

193点という多数の応募を嬉しく思うと同時に、「日々の生活をより安全に、より快適にしたい！」という心の叫びであると感じました。そして、見えない・見えにくいとはどういうことなのかを、現実的に知ることができました。審査は難航し、表彰された作品とそうでない作品の差は僅か。その差を言うならば、日々の生活への食欲さ、そして夢が語られていたか、というところでしょうか。

夢が無限である以上、このコンテストも続きます。大人も子供も一緒に夢を語れるようなアイデアを期待しています。

気がつくことの重要性

サイトワールド実行委員会／株式会社ラビット代表 荒川 明宏

「不便」と思ってしまうとなんとなくストレスに感じるため、「これが当たり前の世界」とついつい自分に言い聞かせ、いました。それが「アイデアコンテスト」と名前を変えるだけで、不便さから新しい発想が生まれ、「こんなこと実現できたらいいなあ」と心から審査をしながら楽しんでしまいました。

出張先などで誰かに物の説明を受けると、「変身カメラがあればすぐにわかるのに」と思ってしまう自分に笑ってしまいます。

見えないことは不便ですが、夢を持つことは素晴らしいと感じました。

身近な不便さを解決するアイデアの数々

一般財団法人製品安全協会理事 金丸淳子

アイデアコンテストの第1回審査員として参加させていただきました。193点もの応募作品が集まり、審査員も選定に苦労しながら、優れたアイデアを選ばせていただきました。審査の過程で、くすっと笑ってしまうようなアイデアにも何か賞をあげられたらと思いました。

第2回、3回と続けていき、このコンテストが目の不自由な人に使いやすい製品の登竜門になるとおもしろいですね。

夢は実現するもの

東京都立八王子盲学校校長 國松利津子

皆さんの豊かな発想に驚きました。そして私もこんなものがほしいと思うものがたくさんありました。個人で考え浮かんできたもの、グループで知恵を出し合い作り上げたものと様々でしたが、どれをとっても工夫された、とっておきのアイデアで審査が大変でした。時代の流れの中で、夢が実現することはたくさんあります。皆さんの未来の生活そして人生がより楽しく豊かなものになるよう願っています。楽しい夢と一緒に見させていただきました。ありがとうございました。

とっておきアイデアコンテスト審査雑感

社会福祉法人視覚障害者支援総合センター副理事長 樽松武男

この種のアアイデアコンテストに対して約200件の応募があった事、関心の高さに率直に驚きました。“移動”に関する件数が多く皆さんの切実な問題である事が改めて思い知らされました。其の外、日常生活でいかに不便を感じているか様々な工夫をされていることを知り感動すら覚えました。

今後多視点から寄せられたアイデアを実用化に向けて検討できる機会を設け、産・官・学(質の高い安価な製品作り)の協力体制作りも必須であるように思います。これからも大いに期待できるアイデアコンテストでした。

ピンチをチャンスに変える発想の豊かさ

東京都立文京盲学校校長 桑山一也

第1回の審査員を経験してみて、皆様がこんなにも豊かな発想をお持ちであることと、普段の生活の中ではこんなにも多くの不便なことがあるのだということが分かりました。

一つ一つの応募作品には、不便のままでは終わらせない「とっておきの工夫」が散りばめられていて、全ての応募作品を入賞にしたいと思ったほどです。

ピンチをチャンスに変える、あなたならではの工夫を、次回も期待しています。

みんなで夢を生かしていこう、それがアイデアコンテスト！

社会福祉法人日本盲人社会福祉施設協議会理事長 高橋秀治

多くの子供や大人が、生活の中で日頃考えていた夢を出し合って、それを実現したい、という希望あふれるアイデアコンテストの審査をしました。事前に「盲学校」と「一般」に属する二つのコーナーに分けられた内容を読みましたが、200件に迫る作品を見るのは大変でした。それでも、白杖の先を曲げて使う工夫とか、盲学校の生徒や大人になって失明した人たちが町の中にある点字ブロックの高さや幅を考え直す作品など、経験から出た作品に気をとられました。

また、幼児のとき失明した子ども、大人になって視力をなくした人、少し見えるけど白杖や盲導犬を使って歩く人などからは、「もっと自由に町の中をあるきたい」という思いが、一つ一つの作品から伝わってきました。コンテストは楽しかったのですが、皆さんの強い願いに触れたので、心が動きました。

次のコンテストには、どんな作品を応募されるのか、とても楽しみです。このコンテストは、多くの視覚障害者にさわやかな希望を与えてくれるでしょう。

気づきが生みだす明日への可能性

株式会社GKデザイン機構 田中一雄

このコンテストは、画期的な独自性を持つものだ。「目が見えない・見えにくい私だから」という、まさしくユーザー視点からの自由な発想に基づいている。そこには晴眼者では、到底想像することのできないアイデアが満ち溢れていた。こうした生活感覚に根差した「気づき」こそが、真に価値ある道具を生み出す源泉となる。もちろん、提案の中には完成度が高いとは言えないものもある。しかし、夢のあるアイデアこそが重要であり、明日を拓く力となるに違いない。

「応募作品の総評」と「今後の作品に期待すること」

特許業務法人コスモ国際特許事務所代表弁理士 水野 清

応募作品は、盲学校の部と一般の部から「夢のある作品」、「実現可能性のある作品」、「ユニークさのある作品」をたくさん応募していただきました。その中で、スケッチを描いてアイデアのポイントを説明されている作品があり、とても理解し易かったと思います。文章だけでアイデアを理解させるのは多少難しい面がありますので、今後は上手なスケッチでなくても大丈夫ですからアイデアを簡単なスケッチに基づいて説明されるとより良くなると思います。

改良・改善への思いがにじみ出るアイデアの数々に感動！

一般財団法人日本児童教育振興財団業務執行理事 宮木立雄

いずれのアイデアも、「こんなものがあったら便利だなあ」とか「こうすればさらに快適になる、さらに安全に生活できる」という願いに満ちたものばかりでした。初回にもかかわらず、これほどの数のアイデアが応募されてきたことに感動しました。

バリアフリー社会の向上には常に多くの人々が努力されていますが、現実社会では、まだまだ改良したいもの、改善する必要のあるもの、修正できるものが、たくさんあることを知りました。次回はさらなる作品が現れることでしょう。

小さな発見こそ宝物

社会福祉法人日本盲人会連合理事 宮城 正

数多くの応募作品を、一点一点丁寧に拝見させて頂きました。アイデアに富み、豊かな発想に驚き、視覚障害者の可能性は大きく開かれていることを実感しました。また、視覚障害者の求めるものは、年齢、性別、環境によってニーズが違い、このようなコンテストを通じてその意識を共有できることは、大変意義深いものだと感じました。コンテストを通じて大人と子どもの視点の違い、大胆で楽しいものから、課題を浮き彫りにさせる繊細な視点など、その日々の小さな発見から生まれたものこそが、大きな実現への機動力になっていくことがわかりました。そのような事が社会全体で共有される時代になってほしいと願います。

主催／社会福祉法人 日本点字図書館
公益財団法人 共用品推進機構
後援／社会福祉法人 日本盲人福祉委員会
全国盲学校長会
社会福祉法人 日本盲人会連合
社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
協賛／一般財団法人 日本児童教育振興財団

発行 2016年11月1日

目が見えない・見えにくい私だから考えついた“とっておきのアイデア” コンテスト事務局

社会福祉法人 日本点字図書館 169-8586東京都新宿区高田馬場1-23-4 Tel 03-3209-0241(代)

公益財団法人 共用品推進機構 101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-4 OGAビル2階Tel 03-5280-0020